

奥大日岳山行記録



目的地	奥大日岳 (YHC40 周年立山記念登山別行動)	期 日	平成18年8月5~6日 (土・日)
山人	森庄一・山田藤一・五十嵐隆・笠原正雄	特 記	21名参加の記念山行

地名	(着) ~ (発)	天候	記 事
8月5日			
室 堂 発	10:45	快晴	与板発6時。室堂玉殿の湧水付近でストレッチをし、雷鳥坂隊と別れる。
雷 鳥 荘 前	11:20	〃	別周回ルートを進んできた斉藤夫妻らとバッタリ出くわす。
雷 鳥 坂 分 岐	11:25	〃	雷鳥平に大きく下ろされて橋を渡り、分岐を左折する。
新 室 堂 乗 越	11:50~12:05	〃	この手前の登りで少し雪を踏む。剣御前への道を右に見送り、少し先に進み広いところでザックにブルーシートをかけてデポする。この後いくつかのパーティーと出会う。途中の岩道に流血のあとがあった。注意肝心。
稜 線 に 残 雪	1:10~1:25	〃	稜線を乗越えた向こう側に雪が残っている。壁に頭をつけて冷やしたり、水を冷やしたりで暫し休む。これまで見えていた早月尾根もそちら側から剣岳の頂にかけてガスが掛かり始めてきた。
奥 大 日 岳 山 頂	1:25~1:45	〃	剣岳はガスに遮られてしまった。ゆったりとした中大日岳から大日岳へ向かう者が通過して行く。岩に腰を下ろし少し食べる。
新 室 堂 乗 越	2:45~3:05	〃	ザック回収で、昼食もどきを摂る。この後五十嵐は先行して行く。
剣 御 前 小 屋 着	4:25	〃	分岐過ぎからジグザグにつけられた登りとなる。絶好の快晴でガイドブック通りの景観だ。途中5分休みを2回。小屋に着けば、予定通り雷鳥坂上山先着の皆は出来上がっていた。700円の生ビールを贅沢する。
ワインパーティー	6:50	〃	小屋の夕食後、外に出て夕暮れの後立山を望む。498ワインも山では美味。
8月6日			
起 床	4:00	快晴	雨具上衣を着て外に出る。後立山の空が赤みを帯び始め素晴らしいシルエットだ。一度部屋に戻り寝ている皆にそれを伝える。暫く小屋脇で眺めていたが、山田氏に促されて剣御前のピークまで登る。
ご 来 光	4:55	〃	丁度視界に入る後立山の真ん中から朝日が昇る。振り返れば徐々に明るくなる雷鳥平や赤く映る薬師岳がきれいだ。
剣 御 前 小 屋	7:05 発	〃	朝食後、全員で記念撮影、もう一度ストレッチの後歩き出す。
別 山	8:00 発	〃	別山の先端まで行き剣岳をはじめ景色を楽しみ、戻って隊を整え出発。
真 砂 岳	8:55~9:10	〃	鞍部に下り一度コース上で休む。のち登り返してここに来る。
富 士 ノ 折 立	9:55~10:05	〃	岩場の登りを経て稜線に出る。残雪あり。黒部湖、槍、穂高を楽しむ。
大 汝 山	10:40	〃	雷鳥平を背景に全員写真を撮る。終わると皆川氏が来た。1名欠けた。
一ノ越小屋前	11:45	〃	雄山からうんざりするほどの混雑だ。全員が下りて来るまで待つ。
室 堂 小 屋 広 場	12:20~1:00	〃	ベンチで昼食。1缶残しておいた白角水割缶を飲む。バスに戻って帰路。
与 板 着	6:30	〃	厚生年金休暇センターで入浴。アルペン村に立ち寄り帰板。みよしのへ。

YHC40周年記念登山は両日ともこれ以上は無いというほどの快晴好天に恵まれた。第一日目については、2ヶ月前の集会時に企画書を提出し、別行動を申請した。当日、急きょ山田氏が同行を申し出て、結局4人での奥大日岳となった。大日岳を目指す登山者も居て、まずまずの入山者数であった。しかし、雄山方面の人に比べれば、静かと言って良い。新室堂乗越から小屋までは少々のアルパイトが必要だ。小屋が目に入るだけに少し長く感じる。

第二日目は7年ほど前に、中町登山において逆コースで歩いている。そのときは雨こそ降らなかったが、曇っていて今回のような景観は無く、内蔵助小屋の屋根すら見えなかった。天候に恵まれて素晴らしい2日間であった。